

2022/6/11

(オマケの英語教室 no-problem-ly) 書庫版



もし英語を学ぶ目的が受験だったら。

TOEFL、TOEIC だったら。

外交官になる事や英語の通訳になることが目的だったら、

絶対に

「大丈夫？」を Are you fine? No-problem-ly fine?

とする英訳は生まれてこなかったでしょう。

いや、発想すらしなかったでしょう。

なのに、なぜこの語が生まれたのかと言えば、コミュニケーションこそが目的であったから
です。

その時、その場、或いはその前後の経緯の記憶 (history) から生まれた訳です。

このように目的が変わると見えてくる世界や行動するフィールド、或いは行動そのものが
全く変わってきます。

そしてどうしても相手とコミュニケーションしたい欲求が強く、またその必要性が喫緊の
課題であった場合には、何が何でもコミュニケーションをとる手段を考え出すものです。

そして、そういった羽目に陥った場合の「臨機応変な対応力」「応用力」「創出力」の醸成こ
そが大切だと考えております。

英語はまさにそれを成り立たせるには打ってつけの flex 言語だと思います。Flexibility にあ
ふれた言語だと見受けられます。

しかし日本語においてもこういった flexibility 溢れる領域が存在します。

それは二語、四語、あるいは複数語の漢字熟語の分野においてです。

例えば国語辞典にはない

極空 (ごくから = 極めて中身なしの空っぽ状態) = super vacant(empty)

言語道断級極空 (ごんごどうだんきゅうごくから = いうのもおこがましい程の中身なしの
空っぽ) = lost word level super vacant(empty)

極辛 (ごくから = 極めて辛い) = super hotness

悶絶的極辛（もんぜつてきごくから＝悶絶するほど極めて辛い）=super hotness like a naturally wants to twist body

等いくらでも創出できますでしょうか？

まずは創作漢字熟語から初めて、次はその英訳に挑んでみるのも一興かもしれません。